

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
49	川崎市立 柿生中学校	石井 秀明

学校教育目標	今年度の重点目標
○思考力を養う ○美しさを感じ、思いやりのある心を養う ○自主・協力の態度を養う ○健康の保持と体力の増進を図る	「伝え合い学び合い高め合うことができる生徒」 ・真理を追究し、正しく判断できる ・自他を尊重し、社会性に富む ・自主的かつ積極的に行動できる ・保健と安全の習慣を身に着けている

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 確かな学力を身につける教育の推進 ・基礎基本の定着 ・学習意欲の向上 ・支援教育の充実 ・家庭学習の定着	・基礎・基本の定着を目指した「わかる授業」の実践 ・学習意欲を引き出すために端末・ICT機器を活用した授業づくりの実践 ・教師の授業力の向上を目指した授業研究の推進 ・一人一人の個性を尊重した支援教育の推進 ・信頼性と妥当性のある学習評価の研修と工夫・改善	・1人1台のGIGA端末で生徒が自ら調べたり、幅広く意見交換をしたりすることで生徒が主体的に学ぶ機会が増えた。 ・生徒用デジタル教科書活用(英語)を含め、各教科等で積極的なGIGA端末の活用を通して、ICTを活用した授業が展開した。 ・校内研修を実施して、お互いの授業を見合いながら、適切な支援につなげた。	・TTを実施可能な教科で取り組む。 ・グループ学習を通して、ICTを活用しながら「伝え合い学び合い高め合うことができる生徒」を実現する授業の実践する。 ・授業を見合う活動を増やし、授業力向上を目指す
2 自らが考え、判断し、表現する力を育成する教育の推進 ・課題を発見し、解決を図る学習の充実 ・言語活動の充実 ・ポर्टフォリオの作成 ・協働的な学びの推進	・様々な体験活動や進路学習への取り組みを通じた総合的な学習の時間の充実 ・各教科と道徳科、特別活動、総合的な学習の時間を横断的に計画し、互いに関わりながら学ぶ中での言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力の育成 ・共生*共育プログラムを活用した社会性の育成 ・主体的で社会的で深い学びを視点とした授業改善の推進	・共生*共育プログラムと効果測定を計画的に実施することができた。 ・外部指導者を招き、情報モラルの研修を実施し、適切な指導を理解した。	・共生*共育プログラムと効果測定において、生徒の見取りをもっと丁寧に行う姿勢がある
3 豊かな心と健やかな体を育成する教育の推進 ・心を育てる教育の充実 ・基本的な生活習慣の定着と健康と安全に関する教育の推進 ・教育環境の整備	・生命を尊重し、思いやりの心をはぐくむ道徳教育と授業研究の推進 ・時間を守り挨拶ができるといった基本的な生活習慣の定着 ・生徒一人一人が心身ともに健康で安心して学校生活が送れるような健康教育の推進 ・いじめや差別を許さない環境づくり ・校内での定期的な安全点検と明るい環境づくり	・道徳教育ではローテーション授業を実施し、学級担任以外にも道徳性の育成に努めた。 ・外部指導者を新たに取り入れ専門的指導の充実と教員の負担軽減を図った。 ・委員会活動を通してあいさつ運動と昇降口の朝清掃を実施した。	・道徳の授業を大切にしながら、「伝え合い学び合い高め合うことができる生徒」の育成に取り組む。 ・あいさつ運動が活発になるよう、継続して取り組みたい。
4 開かれた学校づくりの推進 ・積極的な情報発信 ・小中連携教育の推進 ・家庭、地域との連携 ・学校評価の推進	・学校だよりやホームページ等を通じた学校の教育活動に関する情報の積極的な発信 ・行事や研修、情報交換を通じた小学校との交流と連携の推進 ・地域活動への積極的な参加や地域理解の推進 ・地域や保護者と協力した開かれた学校づくりの推進 ・学校評価のさらなる改善と、学校運営の活性化	地域教育会議の事務局としての機能(地域教育コーディネーターの選出、事務局としても活動)している。「地域の防災」については、小中学生が参加して意見交換会を行い、研修を深めた。 ・生徒会主体による地域清掃「ゴミバスターズ」を多くの生徒とともに行うことができ、地域理解が進み、地域活動への参加をサポーターに。	・地域教育会議の活動に積極的に参加して、地域の方々と交流をさらに広げていきたい。 ・生徒主体による地域清掃「ゴミバスターズ」を生徒だけでなく、地域の方々と一緒となり、地域活動の一環としたい。
5 教職員の業務改善や働き方について	・業務改善研修 ・障害者事務支援員の活用	・業務改善研修会を定期的に行いながら、教職員間の話し合いを活発に行った。情報機器を生かしたデータの管理や情報の伝達、勤務時間内に会議を設定しながら、会議時間の短縮に努めた。 ・勤務開始時刻開始は異なるが、学校の一日の流れを確認できるようになった。障害者雇用を活用した事務支援員の制度は定着して仕事の生産性が上がった。	・勤務時間内に会議を設定しながら、さらに会議時間の短縮に努めたい。また、教材研究や成績処理などの時間確保に努めたい。 ・チャレンジワークスの活用をさらに広げて

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
○学習評価アンケート結果から ・学習や授業に関する質問の中で「わかりやすく学べる授業が多いと思う」に「あてはまる」と回答した生徒と保護者の割合は前年同様9割を超えました。 ・「ICTを使用した授業が多いと思う」に「あてはまる」とした割合は年々増え、3年前と比べると15ポイントアップしました。 ・担任の先生の力を借りて、ゆっくりにありますが、自己形成していることを感じます。	・情報セキュリティ教育の充実を図り、正しく有意義にGIGA端末を活用する力の育成を図っていきたくと考えています。 ・小さなハードルをテーマに生徒活動や学校行事や学年行事を企画して運営してきた。生徒が生き生き活動できず登校生徒数も例年より少なくなってきた。